

やすうら



はなその野呂高原



今井 満さん (40才)

野呂山から世界へ

野呂山頂で胡蝶蘭（コチョウラン）とバラを生産・販売する「はなその野呂高原」の今井満さん（40才）。1,500坪のハウスには所狭しと花が並んでいます。この仕事を本格的に始めたのは農業大学を卒業後の平成14年から。寒暖差が大きく、夏は涼しい野呂山の環境に魅力を感じ、栽培の地を選びました。贈答用の高級品から、千円程度で購入できる小鉢まで、様々なオリジナル品種を手がけており、県内はもとより、中国・関西地方へ出荷し人気を博しています。栽培で一番気を遣うのは温度管理で、日中は24℃、夜間は16℃を常に保つことが大切だとか。このため、家族全員で野呂山に定住。義父の榎吉登さんは、戦後の開拓で入植した野呂山集落の自治会長として、5世帯15名のお世話もして、地域のコミュニティを守っています。「将来は世界で通用するオリジナル品種を開発し、メイドイン野呂山をPRしていきたいですね」と意気込む今井さん。夢は広がります。



出荷作業に追われる今井さん

オリジナル品種



オスカー さくらピンク

※毎週、金・土曜日は無料見学できます。お気軽にどうぞ。

(有) はなその野呂高原 ☎ 0823-70-5636 安浦町大字中畑字立小路 510-262

福島釉薬 (株)



福島釉薬本社社屋



社長の寺本武志さん

自然のものは自然に作るのが一番!

福島釉薬は明治11年創業、西条で瓦用の釉薬作りを始め、昭和27年頃安浦に移転しました。なぜ安浦を選んだのか社長の寺本さんにお聞きすると、交通の便の良さと釉薬作りに欠かせない水が豊富だからだそうです。(野呂の水がこんな所でも活躍!) 陶芸用の釉薬作りは昭和40年代からで、現在100種類前後を自家調合で作っています。作り方は昔からの伝統にのっとり、調合後、40日から60日かけてゆっくりと天日干し。

天日干しされた釉薬は発色が良いので、バーナーで一気に乾燥させる手法が業界の主流となった現在でも、昔ながらの製法を貫いています。「自然のものは自然に作るのが一番!」と語る寺本さん。安浦の太陽と水により作られた釉薬で1万軒以上の顧客を持つ福島釉薬は、安浦の自慢できる企業のひとつではないでしょうか。



工場内の販売コーナー 天日干しされる釉薬

福島釉薬 (株) ☎ 0823-84-2033 安浦町内海南 5-2-37

ATOひまわり会



まちづくり奨励賞 受賞!

安登地区の遊休農地を生き返らせ、景観づくりをされている、ATOひまわり会(代表:平田清登さん他7名)が「美しい街づくり奨励賞」を受賞されました。優れたデザインの建物や、市民活動として景観を魅了させた団体や個人に贈られる賞です。おめでとうございます。これからも美しいまち「安登」を目指してください!!



まちづくり情報誌

た ん と

TANTO

No.14

発行 平成25年2月10日

安浦町まちづくり協議会 〒737-2516 呉市安浦町中央 4丁目3-2 (呉市役所安浦市民センター内) 電話:0823-84-2261 (年4回発行)



中央ハイツ 市迫 奥条 向野原 跡条 岡谷 沖の手



日之浦 中切 原畑 内平 いなし(市原・中畑・下垣内)

お見事!!
安浦の神明祭

揃い踏み

とんど

一年の無病息災を願う伝統風習の神明祭「とんど」。1月中旬の安登地区を皮切りに2月中旬の三津口地区まで、20カ所で行われます。まちづくり協議会も伝統文化の承継のため、もち米を助成しサポートしています。



赤向坂 藤木 女子畑 内海5区(南谷)※



内海10区(浦尻上) 水尻 三津口7・8区※ 安登小・安登保育所

※は発刊日以降の実施のため、過去の写真を掲載しています。

おでかけ情報

2月	
いなし安浦青空市	2月16日(土) 8:30~ いなしふれあい市場
第6回 安浦かき祭り	2月24日(日) 9:00~ 実成新聞グラウンド
3月	
いなし安浦青空市	3月16日(土) 8:30~ いなしふれあい市場
安浦ミュージカル「ためらい星からやってきた旅人たち」	3月10日(日) 15:00~ 入場料1,000円(全席指定)
4月	
いなし安浦青空市	4月20日(土) 8:00~ いなしふれあい市場
野呂山山開き	4月21日(日) 10:00~ 野呂高原ロッジ横グラウンド
稚児公園・三本松公園・野呂川ダム公園の桜	4月上旬
5月	
稚児明神祭	5月12日(日) 9:00~ 水尻神社・稚児明神

三津口の郷土料理 「あなご」の雑煮でお正月!

牡蠣（かき）の出荷で賑わいを迎える年末、三津口地区では大きなあなご「大穴子」を干した風景が多く見られました。この大穴子は、今も昔も、お正月の膳の主役「お雑煮」と「煮しめ」に使われる郷土料理。



全長1mほどの大穴子



郷土料理 穴子入りの雑煮・煮しめ

三津口湾で捕られていましたが、最近では滅多にお目にかかれなくなりました。大きいもの（魚など）は、サッパリ・アッサリなものが多いようですが、天日干しによって独自の旨味がまして雑煮の出汁や具で味を引き立たせます。雑煮もお餅の形・具・汁の仕立て方で地域によって様々な特色があります。穴子料理で新年を迎える、港町三津口の伝統文化が脈々と今も受け継がれています。

みんなで咲かそう!

絆の桜



平成24年11月27日（火）、安浦町まちづくり協議会（30名）と三津口小学校全児童（72名）が一緒に、実成新開の護岸へ河津桜と八重桜、計30本を植樹しました。安浦の新しい自慢となるよう子ども達とともに元気に育って欲しいですね。



安浦ええとこ村プロジェクト

新そばの収穫祭



昨年8月中旬より、ええとこ村プロジェクトの一環で、南薫造記念館横の休耕田を活用し、景観対策を兼ねて植えたそばは、何と約200kg（1,800人分）を収穫。この新そばを皆さんに味わってもらおうと、12月8日（土）、内海南自治会館で収穫祭を開催。そば作りをご指導いただいた新宅康治さんや、地元そば打ち名人の方々に70人分のそばを打っていただきました。新宅さんや名人からは、香りがよく味も上々と、その出来映えにお褒めをいただき、参加者からも大変美味しいと好評でした。



12月25日、今度はその畑に菜の花とレンゲの種を蒔きました。春が待ち遠しいです。

第6回 安浦かき祭り

売り切れゴメン



2月24日（日）午前9:00～ 実成新開グラウンド

安浦の冬のイベントとして定着した「かき祭り」。三津口湾のアマモと野呂川の清流で豊かに育ち、小ぶりでも味が引き締まっているのが安浦かきの特徴。安浦漁協青年部「若部海」の主催で牡蠣の炉端焼きをはじめ、料理や特産品バザーも出店。ご来場お待ちしております。



大人気「かきの炉端焼き」



プリプリの牡蠣

伝説と昔話 第4話 安浦の民話シリーズ 金時の力石



三津口村の水尻という所に、昔昔、その山に不思議な力を持った「おにんば」と「金時」が住んでいた。二人の住んでいる

あたりは白い土ばかりで、何を植えても育ちが良くないので、何とかしたいと思っている二人は考えたが、どうしても一つにまとまらなかった。金時は、木や草を焼き払ってそのあとを田や畑にすれば良いと言い、おにんばは海岸の入り江に土手を作り、そこに土を入れて新しく土地を作ればよいと言った。

そこで、金時は山の上から大きな石を持ってきて、焼けあとの灰がなくならないように石垣を作り始めた。



右が金時の力石 左がおにんばの石（神后岩）

これを見たおにんばも負けるものかと金時の持ってきた石を土手にしようとして下の方へ転がして運んでいった。二人とも神様から不思議な力をいただいており、どん

私たちの住む安浦町は古い歴史があり、数々の民話や伝説が生まれてきました。子から孫へと後世に残る素晴らしい贈り物。各地に残る古くから語り継がれてきたお話をシリーズで紹介いたします。



対岸に稚児明神があります

な力仕事でも一夜のうちに済ませてしまおうと汗だくになって石を運んでいた。

しかし、金時がやっと石を持ってくると石は残らず、下の方に落とされているので、びっくりして海岸に下りていき、落とされた石を一度に運ぼうと考えて、急いで四つの石を運び、やっとのことで五つ目の石を持ち上げようとした時、里の方でニワトリの鳴く声が聞こえた。



夜の明けないうちにと思った金時が五つの石を一度に持ち上げて山に登ろうと二・三步歩いた所で、東の空から太陽が昇ってきた。石は積み重ねられたり転がされたりして、今でも水尻の山の下の方におかれたままになっていて、一つは「おにんばの石」、もう一つは「金時の力石」と呼ばれている。

※毎年4月の稚児明神祭で、真新しい「しめ縄」で結ばれているのが「おにんばの石」です

写真でみる今と昔

安浦アーカイブ

時代とともに様変わりする景色や人々の暮らし。現在の町並みから懐かしい風景をご覧ください。

昔の写真を募集しています!

ご家庭に眠っている昔懐かしい写真を募集します。写真は広報誌やホームページで活用します。提供いただいた写真は後日返却します。

安浦町まちづくり協議会 0823-84-2261

三津口国道185号 安浦漁港前



昭和37年の漁港前 未舗装で車も少なくのどかである



現在 改良された三津口国道沿い。交通量も多い

安浦駅北からの眺め



昭和53年 田園が残り中学校旧校舎も見える



現在 駅北の区画整理で新しい町に変貌した